

# “Heart to Heart”

第18巻 第3号 (No.55)

発行日 2024年3月1日

心から心へ わかちあう あたたかさ

## 目次:

障害の社会モデル	1
療育プログラムの様子	2 3
コラム：呼び名にかんする 様々な思い	4
教育センターからのご案内	4

## 障害の社会モデル

2006年12月13日の第61回国連総会において、「障害者の権利に関する条約」が採択されました。日本は、障害者団体等からの要望を受けて国内法を整備し、2014年1月に国際連合事務局に承認されました。条約の特徴は以下の4つです。① 21世紀では初の国際人権法に基づく人権条約 ② 「われわれのことを我々抜きで勝手に決めるな」(英語: Nothing about us without us!)というスローガンを掲げた障害者の視点から作られた ③ 「障害の社会モデル」の考え方が示された ④ インクルージョン社会が提唱された

「障害の社会モデル」とは、障害は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会が作り出した社会的障壁を取り除くことは社会の責務だとするのが社会モデルの基本的な考えです。

社会的障壁の解消方法はバリアによって異なります。物理的なバリアは施設・設備の改修によって、制度的なバリアはルールなどの見直しで解消できますし、文化・情報面でのバリアは伝達方法や案内を工夫することで解消できます。つまり、自治体や企業をはじめとした民間の機関などが費用や時間をかけて調整すれば解消できる部分が多いと思います。

しかし、意識上のバリアは、自治体や企業をはじめとした民間の機関の努力だけでは解消しきれない部分があります。どれだけ物理的なバリアである施設・設備が改修されても、点字ブロックやスロープを塞いでしまう人がいたり、差別的な態度や攻撃的

## 武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

な発言をする人がいたりすると、目に見えないバリアが残ってしまいます。多様性とかインクルージョンとか言われている中で、社会がむしろ寛容性や違いを抱える力がなくなっているのではないのでしょうか。多様性や違うのが当たり前だとの前提が欠けていると思います。

私たちにできることは、インクルーシブ教育を推進することによって、多様性のある社会を実現するために意識上のバリアや他のバリアを少しでも解消していくことだと思います。障害は一つの個性なのだという理解が進むためには、それぞれの方々の「心のあり方」が鍵になります。差別や偏見をなくすことはもちろん、街中で困っている人に声をかけられる人が増えると、解消に時間がかかってしまう施設改修や制度改修などのハード面を、人々の心の部分で補うことができます。しかし、困っている人を実際に見かけたとき、「私が声をかけても大丈夫だろうか」「間違った対応をしてしまったら失礼なのでは」と躊躇したり戸惑ってしまったりする人も多いはず。特に発達障害児者のように外見からはわかりにくい障害を抱えた方々に対しては、課題が山積といった感がぬぐえません。そのためにも当事者と社会がよりつながりやすいように、本人への支援を続けていくとともに社会への啓蒙活動を続けていきたいと思えます。

進学・進級に向けて心弾ませていることと思います。来年度も子どもたちに多くの学びの機会を提供できるようにしてまいります。ご協力よろしくお願いたします。





## 療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラム】

**リトムーブ教室** 4色のシュシュを使い、身体部位の名称や位置を知るための活動を行いました。手本と同じように、自分の手首や足首、膝などに素早くシュシュを付けていきます。子どもたちは、「あれ、反対だった」「足にもあった」など試行錯誤しながら楽しんでいました。自分が付けた場所が正しいか手本と見比べてもう一度確認するなど集中して取り組むことができていました。(高橋)



同じ場所かな？

**コンピュータ教室** 毎年、コンピュータ教室ではまとめの活動として、「新聞づくり」を行っています。これまでに練習してきた、PowerPointやWordの機能を使って、自分の興味のあることや、好きなことについて好きなこといろいろ新聞形式でまとめていきます。事前に下書きを準備したり、作成しながらどんどん内容を膨らませたりと、楽しみながらまとめの学習を行っています。完成した新聞は、コンピュータ室と廊下に掲示する予定です。(草島)



好きなこといろいろ

**SST教室** 1・2年生のSST教室では、自己理解や相手とのコミュニケーションを目的とし、「好きな〇〇は何？」などの質問に答える練習を重ねてきました。そのまとめとして、自分の好きな食べもの、得意なことや将来の夢などを紹介する『じぶんマップ』を作成しました。スムーズに答えを書き進めることができ、個性の溢れた素敵な自分マップができました。(齋藤)



ぼく・わたしの将来の夢は…

**音楽教室** “音楽”の三大要素はリズム、メロディー、ハーモニーですが、それを構成する“音”自体の三要素は、音の大きさ、音程、音色とされています。打楽器は叩く場所や叩き方を変えることで、音の三要素全てにアプローチすることができます。手軽ですが奥深い打楽器演奏を通じて、音の変化を楽しみ、音楽的な演奏のきっかけとなることを願っています。(平瀬戸)



太鼓の達人

**キッズアート教室** 毎回、10分間の「ワクワクタイム」でシール、はさみ、折り紙等の反復練習を楽しみました。折り紙は、同じ形に折ったものをつなぎ合わせる「ユニットおりがみ」に挑戦し、三角に折った折り紙3枚をつないだ「ぞうさん」や、8枚をつないだ「竜(辰)」などをたくさん作りました。繰り返し折ることで、折り目に指先でアイロンをかけることが上手になりました。(本田)



折り紙はおもしろい！

**体育教室** 1・2年生はタイヤを使った運動を行っています。主なねらいは、体の左右や上肢と下肢の協調性を高めること、筋力の向上、自分の体の幅や長さといったボディーイメージを高めることなどです。子どもたちは、タイヤを倒さないように転がしたり、持ち上げて運んだり、体でくぐらせたりする運動でたっぷりと汗を流しました。(菊池)



どうしたらくぐるかな？

**ダンス教室** 発表会に向けて2作品の練習に取り組んでいます。「ジャンプ！」は、リズムに乗って色々な跳び方を組み合わせ、元気に動くことを目指しています。「切手のないおくりもの」は、“ありがとう”の気持ちの表現と、舞台上での位置移動を正確に行うことが目標です。予行練習では衣装姿もばっちり決まり、子どもたちは本番に向けて胸を膨らませているところです。(益田)



かっこよく決めポーズ！

**言語プログラム** 低年齢の子どもたちと、絵本を通してやりとりをしています。聞かれたものを指さして答えたり、出てきた動物や食べ物の名前を言ったり、読み終わった後にクイズに答えたり、いろいろな展開が可能です。繰り返しが多い絵本では、次の言葉を予測して話をしてくれることがあります。分かりやすい言葉に言い換えるなど、子どもに合わせて読み方を変えて、一緒に楽しんでいます。(高槻)



いろいろな絵本



## 【スクールプログラム・ラーニングプログラムの様子】

**幼児** 冬から春にかけては節分、ひなまつりと行事が盛りだくさん！幼児スクールでは、今年も花紙や折り紙、絵の具などを使って製作を楽しみました。どれも可愛いのはもちろんですが、にっこりした顔、すました顔など色々な表情があり、それぞれの個性が出た作品となりました。作品を手に取り、「鬼のパンツ」や「うれしいひなまつり」の歌を皆うれしそうに口ずさんでいました。(益田)



いろいろなおひなさま



ロケット・ぶた・ライオンをつくりました



ドリブルしながら前へ！！

**1年生** 図工で、まる・さんかく・しかくのパーツを組み合わせて作品を作りました。黒板の手本を見ながら各パーツを正しい位置に置いていきます。どの向きで置くかによって見た目が大きく変わるものもあり、台紙の上でくるくるとパーツを回しながら、手本と見比べて確かめていました。できた作品は3月中旬まで廊下に掲示していますのでぜひご覧ください。(本村)

**2年生** 体育でバスケットボールを使った基礎的な運動を行っています。ボールを持った状態での模倣動作や担当者の号令に合わせた両手や片手でのドリブルなど、ボールを使った活動を通してボールの特性を理解し操作できるようになることを目指しています。練習を重ねると力の加減で弾む高さが変わること気がつき、ドリブルの力を調整していく様子が見られるようになってきました。(壹岐)



コンパスを使って三角形を描いてみよう



自分の番はいつかな…？



タイピング練習！！

**3年生** 算数で「三角形と角」の学習に取り組みました。①辺の長さに合わせてコンパスを開く。②底辺の両端に針を置いて、短めに線を描いて印をつける。③底辺の両端とつけた印を結んで三角形を描く。という手順で作業をしました。1学期にコンパスで円を描く練習をたくさんしたので、短時間で三角形を描けるようになりました。今後いろいろな道具の使い方を習得していきましょう。(宮下)

**4年生** 国語で「木竜うるし」の物語を学習しました。登場人物の配役を決め、自分の番になったらタイミングよく台詞を読む音読劇の単元です。友だちの台詞を聞き逃すと自分の番が分からなくなり、自分がタイミングを逃せば友だちが困ってしまいます。練習を通して、皆で一緒に一つの作品を作り上げる難しさと達成感を味わうことができました。(柳澤)

**5年生** 9月からコンピュータの授業を続けてきました。正しい指使いでローマ字入力ができるように、キーボードに目印の色シールを貼り、そのキーボードと同じ色の目印が各指についた手袋をはめて練習します。約半年で、入力だけでなく、パソコンの立ち上げやシャットダウンなどの基本操作が身に付き、とても集中して練習に取り組んでいます。(鳥塚)



丁寧に文章を読む



打つぞー、ホームラン！



集中して学習しています

**6年生** 国語では、「読む・書く・聞く」を重点に取り組みました。「読む・聞く」については、リレー読みで友だちの音読を聞きながら目で本文を追う練習を行いました。聞くことと読むことを同時に行うことは皆が苦手とすることですが、継続することで自分の順番がまわってきたときにスムーズに読み始めることができるようになり、文章の内容を理解することにもつながっています。(草島)

**中学生** 体育の時間に「ティーバッティング」を楽しんでいます。ティーの上ののっているボールをよく見てバットの芯にあてるのは、意外と難しい運動ですが、子どもたちは積極的に取り組んでいます。ボールをうまく打てた時には歓声が上がります。バットの持ち方が様になり、将来の大リーガーを思い浮かべながらプレイする者もいて大いに盛り上がっています。(藤本)

**ラーニングプログラム** ラーニングプログラムでは今年度も各自の習熟度に合わせて課題を準備し、取り組んできました。課題の内容は、指先を使う作業課題に始まり、文章の読み書き、四則計算、時計の読み方、お金の学習、生活の常識など多岐にわたります。一人ひとりとてもよく頑張り、力をつけることができました。今後も積み重ねを大切に頑張っていってほしいと思います。(宮下)



コラム 自閉症研究からの学び（2）

呼び名にかんする様々な思い

三浦 優生（愛媛大学教育・学生支援機構准教授）

人物を指し示すことばは、当人の気持ちを尊重すべきという観点から、この数十年で大きく変化してきました。性別に関連する呼称はその一例で、「父兄」「看護婦」といった語を耳にするのは最近では稀です。教育現場では、子どもに対しあだ名や呼び捨てをしない、男女の区別を避け「さん」付けを促すなどの動きも見られます。一律で対応すべきものかどうかは、議論が分かれるところかもしれません。

自閉症に関してはどうでしょうか？その概念は変化を重ねてきましたが、アメリカ精神医学会の診断統計マニュアルが2013年に改訂されてからは(DSM-5)、自閉スペクトラム症(ASD: Autism Spectrum Disorder)という呼び名が定着してきています。また、disorder(障害)でなくcondition(特性)という表記を推奨する考えもあります。ではASD

の当事者は、どのように自身を称し、他者から称されることを望んでいるのでしょうか。

ロンドン大学のリズ・ペリカーノ博士のチームでは、ASDの当事者、家族や友人、支援者ら3,470名に対し、ASDの人々に対する呼び方の選好性を調査しました。回答者の属性により支持率に差があった呼称として、“person with autism”は、支援者からより好まれやすい傾向がありました。人が先に来るこの呼び方(パーソンファースト)は、相手が何より人間であるという意図を反映し、広く用いられてきたようです。

一方で、ASD当事者では、人ではなく特性が先んじる“autistic person”や、俗称の“aspie”の容認率が、他の群より高いことがわかりました。その理由は、自閉的な特性は自分のアイデンティティそのもの

のであるから、先に来るのが自然である、対して、“person with autism”の表現では、autismが人から切り離された、取り除くことができる要素のように扱われ、違和感を覚えるというものでした。

それぞれの側に考えがあり、聞いて初めてその意図が把握できることもあります。昨今は多様性を重んじ言葉遣いに配慮が求められる場面が増えていますが、これは話し手側が批判を避けるための自衛策でなく、あくまで相手の気持ちに寄り添うための調整であることを忘れず、対話とアップデートを重ねていくことが大切ではないでしょうか。



このコラムは4回シリーズでお届けします。

2024年度セミナーのご案内

2024年度の保護者・支援者向けセミナーの日程が決まりましたのでご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせします。4月上旬より募集を始めますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

- 第1回 2024年 6月13日(木) 10時～12時
- 第2回 2024年 10月23日(水) 10時～12時
- 第3回 2025年 2月 5日(水) 10時～12時



2023年度第3回セミナーの様子

学校法人 武蔵野東学園  
武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org



ウェブサイトもご覧ください

<https://www.musashino-higashi.org>



療育プログラムについて

2024年度の療育プログラムはまだ若干空きがございます。ご見学や面談も随時行っております。空きのないプログラムもキャンセル待ち登録ができますのでお問い合わせください。